

生きる力をはぐくむ修学旅行

- 体験学習を通して、自分の将来・地域を見つめる旅 -

埼玉県川口市立東中学校 教諭（研究主任） 大倉 芳樹

教諭（学年主任） 松井 登

．はじめに

．テーマ設定の理由

1) 本校の教育目標との関連から

2) 校内研究との関連から

* 平成 12、13 年度川口市教育委員会研究委嘱（新教育課程）

・テーマ 「生きる力を育む指導法の研究」

- 新しい教育課程に向けて -

* 平成 15、16 年度川口市教育委員会委嘱（総合的な学習の時間）

・テーマ 「自分の思いを生き生きと表現できる生徒の育成」

- 発表の場とそこに至る過程の工夫を通して -

3) 総合的な学習の時間との関連から

・系統的、継続的な学習、研究からの修学旅行の取り組み

4) 学校行事との関連から

・年間を通した各種コンテスト、コンクールの実施 ・クリーン作戦

・遠足（1 年次）、水上自然教室（2 年次） ・夢ワーク（社会体験学習）

．修学旅行までの取り組み < 学校行事、夢ワーク、総合学習などの実践を通して >

・全学年時における学習、取り組み等の集大成として、修学旅行を位置づけた。

1) 1 年次 ・総合学習のテーマ - 地域に学ぶ -

・夢ワーク（社会体験授業）

2) 2 年次 ・総合学習のテーマ - 福祉・ボランティア -

・水上自然教室

・修学旅行の事前学習

3) 3 年次 ・総合学習のテーマ - 卒業研究 -

・修学旅行の取り組み

．修学旅行の取り組み・実践

・日程より

1 日目 - 奈良方面 奈良公園内散策、東大寺、薬師寺

2 日目 - 京都方面 京言葉の学習会、市内班タクシー行動、妙心寺

3 日目 - 京都方面 京都伝統体験、市内班行動

．まとめ、課題

・はじめに

本校は埼玉県川口市の東南に位置し、東は草加市、南は東京都足立区に隣接している、生徒数 586 名（1 年 190 名、2 年 207 名、3 年 189 名）の中規模校である。保護者には本校の卒業生も多く、教育活動に協力的で学校に対する期待も大きい。生徒は明るく素直であり、合唱コンクールや体育祭などの行事等にもよく取り組んでいる。また、部活動も盛んで関東大会に出場する生徒も輩出している。

本校は平成 12、13 年度および平成 15、16 年度に川口市の研究委嘱を受け、これまでに『生きる力』を育むために多方面で生徒の発表力の向上を目指し、全校をあげた取り組みを行ってきた。学校行事として毎年行っている私の主張コンクール、校内英語スピーチコンテスト、東風タイム発表会（総合的な学習の時間）では、自分の考えや思いをいかに表現させるかを課題とし、各取り組みとともにクラス、学年、全校発表（学年・全校は代表者）を行っている。この活動を通して生徒に自信をつけさせ、自主的、積極的に学校生活を送るとともに、生徒一人ひとりが『生きる力』を育むことができると考えている。また東風タイム（総合的な学習の時間）では、1 年から 3 年まで毎年計画的に取り組むことで、各自の研究テーマを深く掘り下げた追求活動が行われている。

これらの体系的な取り組みが毎年継続される中で、修学旅行に向けて実行委員会が中心となり、生徒が自主的に目的や決まりを決めてそれを実践できたことは、これまでの取り組みの成果と言える。また、修学旅行をより充実した内容の行事とするために、教職員で組織する修学旅行実行委員会（昨年 9 月）を新たに発足させた。この会を通じて、これからもよりよい修学旅行を目指し、検討していく予定である。

・テーマ設定の理由

本校では、これまで教育活動や校内研究、総合的な学習の時間、学校行事等を通じて、様々な目標設定や実践を行ってきた。今回の修学旅行では、それらの実践を一貫性のある形で系統立てて整理を行い関連づけすることによって、「生きる力をはぐくむ修学旅行 - 体験学習を通して、自分の将来・地域を見つめる旅 - 」というテーマを設定した。そこで、1) から 4) に今回のテーマ設定の基礎となった本校の取り組みについて述べる。

1) 本校の校訓・教育目標から

本校の校訓『賢く・優しく・逞しく・美しく』のもと、『良く考える生徒、心豊かな生徒、心身ともに逞しい生徒、勤労・奉仕の心を持つ生徒』を学校目標に掲げ、教育活動を進めている。各学年ともにこの校訓・教育目標を達成するために現状を把握し、学年目標を設定している。1 学年は『思いやりの心を持ち、お互いが協力し合って、意欲的に活動する生徒』、2 学年は『進んで自らの向上心を図り、何事にも主体的に取り組む生徒』、3 学年は『最上級生としての自覚を持ち、より高い目標の実現へ向けて実践できる生徒』である。この目標を達成させるために、教職員が連携をはかりながら、各教科がそれぞれの目標を立て、日々の教育活動を通して実践を行っている。

2) 校内研究との関連から

本校では川口市から研究委嘱を受け、全校をあげての取り組みを行ってきた。

* 平成 12・13 年度川口市教育委員会研究委嘱

テーマ『生きる力を育む指導法の工夫』

- 新しい教育課程に向けて -

平成14年4月から施行された新学習指導要領を念頭に入れ、「特色ある教育」を展開し、生徒の豊かな人間性や自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」を育むという基本的な考え方に立ち、国語・保健体育を中心として、各教科で取り組みを行った。とくに国語科では「伝え合う力を高める学習指導の工夫 - 論理的な思考力の育成を目指して - 」をテーマに研究を進め、全校生徒による『私の主張コンクール』等の取り組みを行った。自分の意見を発表する場を設定することで、生徒に考えを表現する力を身につけさせるとともに、人に聞いてもらうことで発表する力が養われた。このコンクールは継続して毎年取り組んでいる。

- *平成15・16年度川口市教育委員会研究委嘱
テーマ『自分の思いを生き生きと表現できる生徒の育成』
- 発表の場とそこに至る過程の工夫を通して -

テーマをもとに「総合的な学習の時間」の研究に全校体制で取り組んだ。本校では、総合的な学習の時間を「東風タイム」として、次に示す生徒像を目指して研究を進めた。

- ・自ら課題を発見し、課題追求を通して学び方・ものの見方を身につけ、主体的に課題解決に取り組む生徒
- ・自己の思いや成果を生き生きと表現できる生徒

生徒は学年ごとに設定したテーマをもとに課題設定、課題追求、まとめ、発表準備の順で取り組み、成果を発表する。発表は クラス発表（各教室での発表）、 学年発表（ステージ発表）、 全校研究本発表（ステージ発表＋教室発表）の順で行われる。この取り組みを毎年、検討を加えながら行っている。



3) 総合的な学習の時間（東風タイム）との関連から

本校の教育の全体テーマは『生きる力を育む指導法の研究』であり、前項で述べた通り、本校では総合的な学習の時間（東風タイム）として取り組んでいる。

東風タイムでの各学年の取り組み内容は次の通りである。

- ・1学年：「地域に学ぶ」 - 地域を題材にして身近なテーマ・課題等を充実させるとともにフィールドワーク、ものの見方を身につけさせる。
- ・2学年：「福祉・ボランティア」 - 福祉・ボランティアを題材にし、興味・関心のある分野について調査・研究し、発表の実践的な力を身につけさせる。
- ・3学年：「卒業研究」 - 1年、2年次に培った力をもとに、自分の興味・関心のあるテーマを設定し、本格的な追求活動・発表活動のできる生徒を育成する。



4) 学校行事との関連から

本校では、今までに「生きる力」を日常の教育活動において、いかに身につけさせるかを大きな課題として取り組んできた。東風タイム（総合的な学習の時間）、私の主張コンクール、校内英語弁論大会等を通して、自分の考えや研究テーマを設定し、調査・研究、資料収集、まとめ、発表の過程を生徒一人ひとりが取り組むことが「生きる力」を育むことにつながると考えている。ここに具体的な取り組みをあげる。

* 私の主張コンクール（国語科）

生徒は身の回りのことなどで普段から感じていることや疑問をもとにテーマを設定、追求し、思いや考えを深め、まとめていく。発表は各クラスで全員が行い、代表者は学年発表、全校発表を行う。発表は2、3年生になるにしたがって、内容も濃いものとなり、自分の思いや考えを表現する力を身につける生徒も多く見られるようになった。また、大勢の前で堂々と発表する生徒も増え、自信にもつながっている。

* 校内英語スピーチコンテスト（英語科）

生徒は弁論、暗唱のどちらかを選択し、全員が発表を行う。とくに英語に自信がある生徒や何か話題を持っている生徒は弁論を選び、楽しく取り組んでいる。これも私の主張コンクールと同様に、学年があがるにつれて、自信を持って発表する生徒が増え、内容も充実したものが多く見られる。



* 夢ワーク（社会体験学習）

毎年、1学年を対象として、3学期に職場体験学習を行っている。地域の事業所の協力のもと、生徒は希望する職種を選択し、3日間の活動を行う。最初は、はじめての体験活動にとまどいを見せながらも、一人ひとりの生徒が伸び伸びと活動する姿が多く見られた。実際の職場体験や事業所の方々の話を通して、生徒ははたらくことの意義や大変さを感じ取ったようである。具体的な活動は以下の通りである。



- ・事業所数 41カ所
- ・職種別 - 園芸、公共、建設、製造、販売、飲食、幼稚園、小学校、福祉、消防、郵便、病院、寺等
- ・保護者の意見
 - 親や先生とは違った大人と接することで、社会における責任のようなものを感じ取ったと思う。
 - 子供たちがそれぞれ生き生き仕事をして、大きな声であいさつをしている姿を見て、よい活動だと思っています。
- ・事業所の意見
 - 子供と親密になり、3日目に別れが惜しくなった。（子供は）自分から活動していた。

- 3日間という短い期間ではあったけれど、子供たちのはたらく姿はとてすばらしかったです。

・ 課 題

- 生徒にとって貴重な体験だけに、生徒の希望を活かした施設・事業所の確保が困難になりつつある。
- 校内の行事が過密になり、体験活動のための最適な3日間を確保することが難しい。



・ 修学旅行までの取り組み

テーマ設定の理由から、本校のこれまでの取り組みでは、『生きる力』をいろいろな場面を通して育むことを目標に活動してきたが、修学旅行においても、何を通してこの『生きる力』をつけていくかが課題となった。

そこで、校長・教頭・教務主任・学年代表からなる修学旅行実行委員会を新たに設け、学校全体で取り組むことを確認した。

* 修学旅行とリンクした1・2・3年次の総合的な学習の取り組み

・ 1年次【地域に学ぶ】

自分が住んでいる地域に何があるか、どんな地域なのか等を、各班がテーマを決め調査をした。また、地域の方にインタビューをするなど、取材方法や情報収集のやり方を学んだ。発表は各自が地域新聞を作成し、発表した。

< 成果と課題 >

フィールドワークを通して、地元の特徴等を認識することができた。
取材方法や情報収集のやり方を学ぶことができた。また、インタビュー前のアポイントメントの取り方などを通して、電話のかけ方等のマナーを学ぶことができた。

・ 2年次【福祉・ボランティア】

川口市社会福祉協議会と連携し、車いすや高齢者疑似体験等のいろいろな体験活動を通して、福祉・ボランティアについて考え、これらの経験をもとに生徒一人ひとりがテーマを設定して探究活動を行った。発表方法については、各自がいろいろな方法を考え行った。



< 成果と課題 >

体験を通して、ハンディキャップがあることの大変さを知るとともに、その方々に対しての環境がまだまだ整っていない現状を理解することができた。
テーマ設定、探究活動を通して、自分たちにできることは何かを考える生徒が見られた。
発表方法に工夫が見られた。発表を通して自信がついた。

また、修学旅行に対する意識づけや準備のために、2年次での学習内容を2学期中に終了させ、3学期から修学旅行へ向けての取り組みを始めた。

・ 3 年次【卒業研究】

1、2 年次に培った力をもとに、自分の興味、関心のあるテーマを決め、より深く調査・情報収集・まとめをできるようにする。

また、修学旅行での京都伝統産業体験学習を通して、自分の将来を見つめるきっかけとする。

< 成果と課題 >

修学旅行での京都伝統産業体験学習を通して、京都の伝統、文化のすばらしさを体験することができた。

京都伝統産業体験学習を通して、自分の将来を見つめる大きな体験となった。

京都伝統産業体験学習を今後どのように、系統的、体系的に教育活動に活かしていくかが課題である。

・ 修学旅行の取り組み

1) 事前 (2 年次) の取り組み

* 本校でのこれまでの教育活動をふまえ、年度当初に教師による修学旅行実行委員会を設け、修学旅行全般について討議した。

この実行委員会の話し合いとともに、学年の現状をふまえて、計画を具体化していった。

* 今回、京都伝統産業体験学習で協力いただいた、植柳学区自治連合会長さんと、修学旅行での体験活動の取り組みについての連絡を取り合った。

* 京都社会福祉協議会と『京ことば』学習についての連絡を取り合った。

* 生徒は 2 年の 3 学期から修学旅行へ向けての取り組みを開始した。事前学習として『奈良・京都』について各自がテーマを決め、調査・まとめを行った。

* 事前学習は次の通りである。

事前学習の期間、内容

1 月 25 日 - 修学旅行の目標・概要説明・テーマ決め

2 月 1 日 - テーマ決め、資料収集

8 日 - 資料収集、まとめ、新聞作成

22 日 - 資料収集、まとめ、新聞作成

3 月 8 日 - 新聞発表会

修学旅行当日の日程を知る。

当日までの取り組みの内容を知る

事前の調べ学習に取り組む。

・ 京都の文化や歴史について、個人でテーマを設定し、学習に取り組む。

・ 調べた内容を『京都新聞』にし、掲示する。

< テーマの参考資料として次のような内容を提示した >

歴史的建造物 (寺社仏閣)

歴史的な人物

昔と今の交通

昔の庶民の生活について

京都の産業について

京都の特産物

京都駅について

観光について

京都の河川について

その他



2) 事前(3年次)の取り組み

3年次にクラス編成をする関係上、新年度に生徒の実行委員会(各クラス男女1名)を組織し、計画を進めていった。

* 日程 6月2、3、4日(土、日、月)

- 1日目 奈良 奈良公園、東大寺、薬師寺
- 2日目 京都 京ことば学習、班別行動(タクシー)、妙心寺での座禅体験
- 3日目 京都 京都伝統産業体験学習、市内班別行動

* 目標

日本の伝統文化に触れ、文化遺産の大切さを知る
クラス行動、班行動を通じてお互いが協力し、友情を深める
社会的ルールやマナーを守り、健康で安産な修学
旅行を体験する

* 実行委員会が立てた目標

- ・京都の美をあふれんばかりに味わう
- ・時間を守り、礼儀正しい振る舞いをしよう
- ・体験学習を成功させよう



* 取り組み日程と内容

4月	17日(火)	第1回実行委員会	正副委員長、日程説明、目標設定
	20日(金)	第2回実行委員会	班・係決め、ルールの確認、検討
	25日(水)	学年集会	体験学習の説明
		第3回実行委員会	体験学習先決め
	27日(金)	係会議	係の仕事の確認、体験学習の提示 事前学習
5月	1日(火)	修学旅行保護者説明会	
	11日(金)	2日目班別行動コースの決定	
	14日(月)	第4回実行委員会	しおり原稿締め切り、部屋割り決定
	18日(金)	第5回実行委員会	体験学習事前学習
	21日(月)	しおり	
	25日(金)	体験学習の事前学習まとめ	
	28日(月)	第6回実行委員会	しおりの読み合わせ 班長会
6月	1日(金)	事前指導、荷物発送	
	2日~4日	修学旅行	
	8日(金)	学年集会	
	15日(金)	第7回実行委員会	反省会、 まとめ(新聞づくりへの取り組み)
	22日(金)	礼状・新聞づくり	

* 京ことばの学習会



これまでの「東風タイム」(総合的な学習の時間)の取り組みの経験から、修学旅行中に京都ならではの体験ができるかどうか、京都市社会福祉協議会と連絡をとり合い、いろいろ検討したところ、協議会から『京ことばの会』を紹介された。本校の『生きる力』を育む教育の一環として1年次の総合的な学習の時間に、「地域に学ぶ」をテーマとした学習活動があるが、私たちになじみのある、そして私たちがよく耳にする京ことばを学習することにより、私

たちの地域(地元)のことばを振り返るよい機会と考え、この取り組みを行った。

実際の体験としては、京ことばの歴史、現在使われていることば、御所ことば、京ことばでの朗読を学習した。朗読の迫力の中に、京ことば独特の響きは生徒を魅了した。



- 生徒の感想(お礼の手紙より) -

先日の京ことばの学習の時間では大変お世話になりました。京ことばの学習をして、京都のすばらしさや歴史を再認識することができました。とくに「鬼の手」の朗読は、「すごい」の一言でした。あんなに表現して、さらに、京ことばで朗読する中島さんは、本当にすごいと思います。

また、前半の学習では、普段私たちが何気なく使っていたことばが実は『京ことば』だったことや歴史と深い関わりがあったことなど、驚きと発見の連続でした。

この学習を通して、私たちの住んでいる地域のことばにとっても興味を持ちました。京都の人と同じように、自分が住んでいる地域のことばにほこりを持っていきたいなと思いました。短い時間でしたが、とても貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

* 京都伝統産業体験学習

京都は長い間、日本の中心として発展し、その伝統文化は現在にも継承されている。ことに植柳学区自治連合会の寺内町は桃山時代に本願寺が京都の地に移転されて以来、500年にわたり、本願寺と関係が深い仏具、法衣、御香その他、多くの店が京都伝統産業を今に伝えている。その日本の古都・京都の寺院・工匠の技が受け継がれている各事業所で体験学習ができることは本当に意義深いものと考え、今回の修学旅行のメインの一つとした。ここでは寺院、仏具製造販売、表具、和紙販売、御香、法衣製造販売、豆腐製造、旅館、漬物店等の22事業所に協力を



いただいた。生徒は普段、経験できない貴重な体験を通して、日本の歴史・古都京都への理解を深めることができた。

< 京都伝統産業体験学習、事前学習の取り組み >

- 1) 植柳学区自治連合会長さんとの連絡
- 2) 体験学習班分担決め
- 3) 事前学習 - 仕事内容や取り扱っている品物から、追求していく。
- 4) 現地での体験 - 説明を聞く、体験、インタビュー。
- 5) まとめ - しおりをまとめる。

〃 < 生徒の3)、4)、5)のまとめ例 > //

- ・店名 - 土屋念珠店 ・業種 - 京念珠製造卸
- ・仕事の内容 - 念珠をつくる。念珠を販売する。
- ・仕事について詳しく調べる。

数珠の素材は大きくわけて2種類ある。

- ・木の素材 - 黒檀、紫檀、鉄刀木、白檀、つげ、梅
- ・木の実 - 星月菩提樹、金剛菩提樹
- ・石の素材 - 水晶、メノウ、ヒスイ、珊瑚、オニキス

星月菩提樹は数珠に使われる代表的な木の実で珠の表面に細かい斑点があり、星を象徴する小さな穴と月を表す穴がある

また、羅漢や骸骨を彫った数珠やお寺の改築の時に出た古材で加工された数珠を記念品として配ることもある。

・インタビューは

- ・いつからこの店はあるか - 3代目で、大正時代から創業している
- ・一日に何個つくるのか - 20～30個、安いものは100～200個
- ・念珠の原材料はどこの国から輸入されるか - 中国、日本のものは高い
- ・念珠をつくる時の道具は - ハサミ、めうち、物差し、金具
- ・念珠の種類は - 300～400くらい
- ・一つの念珠をつくるのに必要な時間はどのくらいか - 10～30分
- ・仕事をしていて一番つらかった事 - なれるまでつらい
- ・良かったことは何ですか - 喜んでもらえる
- ・生きがいは何ですか - みんなに喜んでもらえる事
- ・私たちへのアドバイス - 何事にも『根』がいる



〃 <生徒の3)、4)、5)のまとめ例 > //

- ・店名 - 京漬物西利 ・業種 - 京漬物製造卸
- ・仕事の内容 - 京漬物製造販売
- ・仕事について詳しく調べる

漬物の種類は生しば漬、あじすぐき、さくら漬、ゆず白菜、千枚漬など
漬物は季節によって変わる。春は菜の花漬、夏はしば漬、冬は千枚漬、すぐき

- ・インタビューは
 - ・現代で何代目か - 3代目
 - ・つらかった事、良かった事 - 仕事を覚えるまでが辛い。商品積み。毎年きてくれる客がいる
 - ・一日に売れる数は - 2500本売れる
 - ・生きがいは何ですか - 接客している時に感じる
 - ・どんな種類が売れるか - ナス、大根が一番売れる
 - ・私たちへのアドバイス - 何事にも『根』がいる

このように生徒は自分たちで調べ、実際にその仕事を体験（見学のための職場もあった）し、インタビューをした。この体験活動を通して生徒は京都の伝統的産業の奥の深さと、それを継承する意義・喜びを感じ取ったようである。

この京都伝統産業体験学習と1学年で体験した夢ワーク（職場体験学習）等を通して自分の将来を考え、中学卒業後の進路に活かして欲しいと考えている。

最後に、お世話になった寺院、店舗への感謝のことばを修学旅行実行委員長が送ったが、その一部を掲載する。



～前略～

私たち東中学校3年生は埼玉県では絶対に味わうことができない京都の伝統工芸、お寺での修行などの一部を体験する事により、京都の誇り高い伝統文化に少し触れる事ができました。また日本文化の深さ、趣を少し体得できたように思います。

この体験はいろいろな職種にわたり、私たちの希望に沿ったものなので興味をもって体験できたと思います。もちろん生徒の数が多く、思い通りの職種ではなかった人もいましたが、体験学習後に「良かった」と言っていました。とても有意義なものになったと思います。今後私たちの職業選びに生きてくると思います。

～後略～

生徒は2泊3日の修学旅行の思い出や貴重な体験学習を新聞にし、廊下に掲示して、一人ひとりの修学旅行をみんなで享受し合った。

・まとめ、課題

『生きる力をはぐくむ修学旅行』というテーマを設定し、この『生きる力』を意識しながら、準備段階から一つ一つのことに対して生徒を主体に取り組んできた。

京ことば学習会では、ほとんどの生徒が講師の話に対して真剣に耳を傾け、学んだ京ことばを市内のお店で使っていた生徒も見受けられた。また、京都伝統産業体験学習では、埼玉では絶対に経験できな体験ができ、京都の伝統文化の深さを強く感じた生徒が多く見られた。京ことばを学習し、京都の伝統産業を地元の方と交流しながら体験する中で、あらためて地元埼玉を振り返り、さらには自分の生き方を考えるよい機会になったのではないかと考えている。

< 生徒の修学旅行の感想 >



- ・今日は京都最後の日でした。帰りたくなかったけど、、、もう少し居たかったです。体験学習は本山興正寺で、本堂の雑巾がけをし、楽しかったです。
- ・体験学習では豆腐製造の『京の雪本舗』にいきました。そこでは豆腐や『とうふりーむ』というアイスをいただきました。いろいろな工夫なども聞くことができました。楽しい一日でした。
- ・今日は最終日だった。体験学習は宗教織物で、織るのを体験した。難しかったけれど楽しかった。3日間は楽しかった。

- ・体験学習では漬物について詳しくいろんなことを知ることができて良かったです。京都の漬物はあっさりしていて美味しかったです。京都に来たら、また食べたいです。
- ・今日は和泉屋旅館にいて体験学習しました。旅館についての話を聞いたり、料理でキュウリを蛙の形にきったりする体験をさせていただきました。楽しい一日でした。

< 今後取り組むべき課題 >

十分な取り組みの時間の確保

学校行事や日頃の仕事量などを考えると、なかなか修学旅行の取り組みに十分な時間を確保することができなかった。

京都伝統体験の事前取り組み、事後のまとめの充実

事前に京都の伝統や体験内容について十分調べた上で実際に体験し、事後にまとめを行うことで、仕事の本質、伝統産業の奥深さを認識させられたのではないか。

地元埼玉を振り返る機会の設定

地元埼玉の伝統や日頃関わりのある仕事との関連づけを行い、振り返る機会を設定できると、より体験を活かすことができたのではないか。



最後にこの修学旅行を通して、生徒にとって生きる力が培われ、将来の生き方を考える糧になることを期待している。